

社会貢献預金(笑顔プラス)の寄付先団体の活動をご紹介します。

近畿ろうきんは、社会貢献預金(笑顔プラス)の取組みをとおして、被災地支援や障がい者支援、子育て支援、女性・マイノリティ支援、環境保全、国際協力などの活動を行う、NPO・市民団体を応援しています。

NPO法人 山科醍醐こどものひろば(京都地区) 《子ども支援・貧困対策》

理事長 品田 真孝

私たち山科醍醐こどものひろばは、地域(山科区と伏見区醍醐地域)に住む家庭的に困難さを抱える子どもを対象に、日常生活の延長線としての、夕食、入浴、洗濯などを行う生活支援、学習進度に合わせた学習支援、長期休暇やライフケント時にそれらの思い出づくりや経験をさせる余暇支援、困窮家庭・ヤングケアラーへの食材支援を実施することで、安全・安心に過ごすことのできる場、日常をつくりっています。

活動を継続的に実施することで、家庭だけでは不足している日常生活でのご飯や入浴、宿題、洗濯、思い出づくりなどを補ってきました。また、家庭ではできないやらないことを実施することで、子どもにとってわからない、やったことがないという漠然とした不安を取り除いています。多くの子どもが当たり前にできていることを諦めなければいけない状況があるなかで、少しでもその状況を減らしていきたいと思いますので、引き続き応援をよろしくお願ひいたします。



NPO法人 日常生活支援ネットワーク(大阪地区) 《障がい者生活支援》

理事長 柿久保 浩次

私たちは障がい者の地域生活を支援する中で、人が集う居場所やネットワークづくりにも取り組んできました。2011年より被災障がい者救援活動として始めた「東北↔関西ポジティブ生活文化交流祭」は、より多くの人がつながれるよう「童夢KANSAIフェスティバル」という名称に変更しました。この取組みは毎年11月に長居公園で関西の障がい者団体50団体の出展と3000人が参加され、年に一度「集うこと」と「おしゃべりすること」を大切にしています。この「集う」と「おしゃべり」を小規模ながら地域で始めたのが「みんなの会」。当初は地域のこども食堂として始めましたが、障がいのある子と親が参加することにより、親同士がつながりを持てるようになりました。またこの会を運営する小学生・高校生・その学校の先生たちと近所の外国人にルーツをもつこどもたちが加わり、一緒に流しそうめんなどをしました。また最近では地域とつながりたい外国人コミュニティがカレーをふるまってくれるなど、いろいろな人たちがこの場で知り合い、障がいがある人もない人も地域で生活するためのこれからを示す試みを現在隔月でしています。



人をむすぶ、こころをつなぐ



笑顔プラス

社会貢献預金(笑顔プラス)は、「預金者の寄付負担(金利引下げ分の利息相当額)」と「ろうきんの拠出金」の合計額を地域のNPO・市民団体に寄付を行う定期預金です。

*商品の詳細は、当金庫ホームページをご覧ください。また店頭に商品説明書をご用意しています。

f 近畿ろうきんFacebookページ

<https://www.facebook.com/kinkirokin/>



近畿ろうきんFacebookページでは、社会貢献預金(笑顔プラス)の寄付先団体の活動状況などを随時公開しています。